

地域経済動向及び地域景気動向調査 分析結果

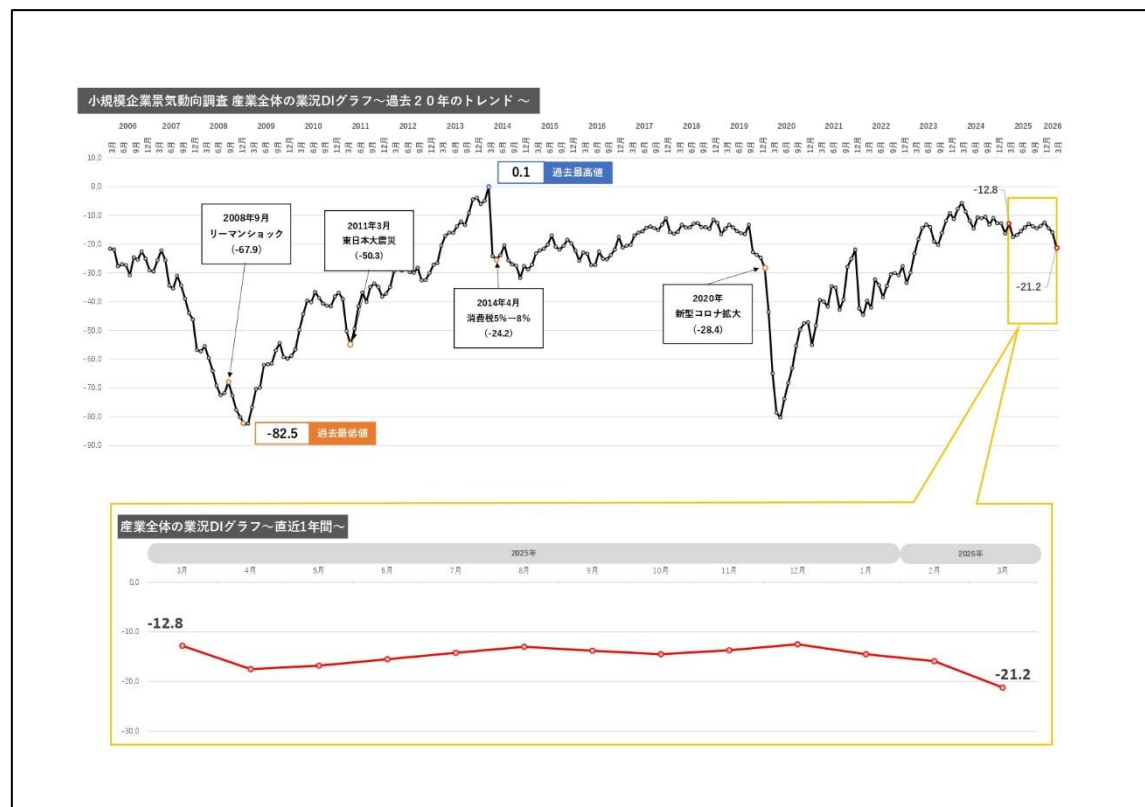
【景気動向】

令和7年度（2025年4月から2026年1月まで）の全国および福岡県の景気動向に、独自調査した田主丸町の分析項目を加え、総括します。

1. 全国景気動向：コスト増と消費抑制に翻弄された1年

全国の小規模企業景気動向調査によれば、令和7年度は**物価高騰と人件費負担の増大が継続し、景況感は「緩やかな回復」と「足踏み・悪化」を繰り返す不安定な推移**となりました。

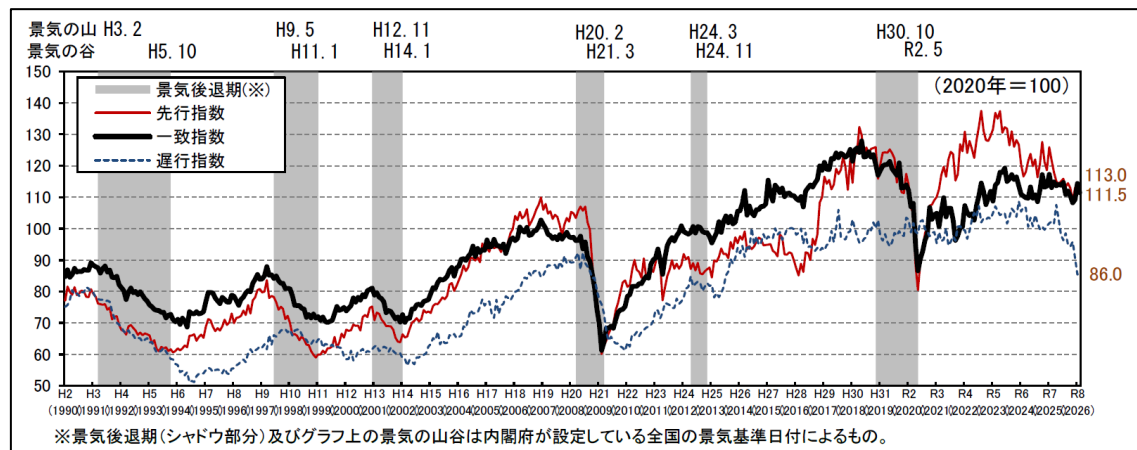
- **期初（2025年4月～6月）：停滞と不安** 4月は消費マインドの著しい低下や米国の関税政策の影響により、全産業でDIが悪化しました。原材料費の高騰が価格転嫁しきれず、節約志向による買い控えが続くなど、停滞感が強まりました。
- **夏季（2025年7月～9月）：天候と政策合意による一時的な改善** 7月期には猛暑による需要増や日米間の関税交渉合意が追い風となり、4か月ぶりに全DIが上昇しました。観光関連を中心に持ち直しの動きが見られましたが、人手不足による機会損失も課題となりました。
- **期末（2025年10月～2026年3月）：コスト増と地政学的リスクによる失速** 10月からは最低賃金引き上げの影響が顕在化し、売上はあっても利益が出ない構造が鮮明になりました。**2026年1月に入ると大雪の影響やコスト増が重なり、売上額DIが大幅に低下（前月比▲10.6ポイント）**するなど、**業況は再び悪化**しました。2月～3月にかけては、中東情勢の緊迫化（米国によるイラン攻撃等）に伴う原油高や原材料費のさらなる高騰が全産業を直撃し、年度末にかけて採算・業況DIが大幅に低下して幕を閉じました。



2. 福岡県の景気動向：特定業種の活況と労働コストへの強い懸念

福岡県のデータからは、建設・製造業の一部での堅調さと、人件費増大への危機感が読み取れます。

- **特定産業の勢い**：建設業が活発であり、資材加工などの関連業種が増加傾向にありました。製造業では、世界的な船舶需要増により船舶内装関連で大幅な売上増を見込む声もありました。
- **「全国最高額」の最低賃金引き上げへの不安**：福岡県内では、**2026年1月1日から施行された最低賃金の引き上げ額が全国で最も高かった**ことから、小規模事業者の資金繰りへの懸念が非常に強く示されています。
- **景気動向指数（CI）の動き（2026年2月速報値）**：先行指数は113.0（前月比▲0.6）、一致指数は111.5（前月比▲2.9）と低下したものの、一致指数のDIは57.1%となり、2か月連続で50%を上回るなど、指標上は持ち直しの動きも見られました。



3. 田主丸町の景気動向：災害復興と地場産業による「回復途上」の経済

久留米市田主丸町においては、復興需要が下支えとなる一方で、小規模事業者の存続が危ぶまれる独自の状況にあります。

- **災害復旧工事による建設関連の動き**：令和5年7月の豪雨災害からの復旧・復興が進行しており、森部地区などの被災地域でのインフラ整備や災害復旧工事が景気を下支えています。これは、ソースに見られる福岡県内の「建設業の活発な動き」や、他地域での「災害復旧による高水準の稼働」という動向とも整合します。
- **地価・景況感の停滞**：豪雨災害の爪痕の影響から、地価は完全な回復に至っておらず、横ばいや厳しい状況が続いています。物価高や人手不足が採算を圧迫する全国的な傾向に加え、被災という地域固有の要因が回復を遅らせる要因となっています。
- **小規模事業者の急速な減少とデジタル化の推進**：小規模事業者の減少が顕著であり、経営環境は非常に厳しい局面です。ソースでも全国的に「廃業を検討する声」や「後継者不在による廃業」が散見されます。これに対し、田主丸町ではデジタル技術の導入や生産性向上、事業継承支援などの「経営発達支援計画」による再活性化が図られています。

- **地域ブランド（果樹・苗木）の維持**：柿やブドウなどの農業、および苗木産業といった地域ブランドが経済の核として景気を支えています。食品製造業などで観光需要や設備投資による持ち直しの動きがある中、ブランド力の維持・向上が地域経済の生命線となっています。

4. 総括：構造的課題と「二極化」の進行

令和7年度を通じて、全国・福岡県・田主丸町に共通して**コストプッシュ型の収益圧迫**（原材料・エネルギー高、最低賃金引き上げ）が採算を直撃しました。

全体としては、災害復興や特定の需要（インバウンド、年末需要など）を享受できる部門がある一方で、労働コストの増大や消費マインドの低下に耐えきれず廃業を検討する小規模事業者が増えるという「二極化」がより一層鮮明になった1年と言えます。特に田主丸町においては、復興という特殊需要があるうちに、地場産業のブランド維持と事業者の経営体質強化（DX化など）をいかに進めるかが、今後の持続的な景気回復の鍵となります。

【人口動態】

令和7年度（2025年4月から2026年3月まで）における久留米市全域および田主丸町の人口動態について比較分析し、総括します。

1. 久留米市全域の人口動態

久留米市全域の人口は、令和7年度を通じて**緩やかな減少傾向**にあります。

- **年度当初（令和7年4月1日）**：299,539人
- **年度末（令和8年3月1日）**：298,320人
- **年間増減**：1,219人の**減少**（減少率：約0.41%）

月別の動きを見ると、5月（299,913人）や10月（299,357人）に一時的な微増が見られるものの、全体としては右肩下がりの推移となっています。特に年度末にかけての減少が目立ち、2月から3月にかけては112人の減少（298,432人→298,320人）を記録しています。

2. 田主丸町の人口動態

旧田主丸町の人口は、市全体と比較して**減少のペースがより顕著**です。

- **年度当初（令和7年4月1日）**：18,022人
- **年度末（令和8年3月1日）**：17,844人
- **年間増減**：178人の**減少**（減少率：約0.99%）

田主丸町では、年度を通じて増加に転じた月はなく、**毎月連続して人口が減少**しています。特に年度後半の減少が継続しており、地域としての人口減少圧力が強いことが伺えます。

3. 比較分析と総括

令和7年度の久留米市全域と田主丸町の人口動態を比較すると、以下の特徴が挙げられます。

- **減少率の格差**：市全体の人口減少率が約0.41%であるのに対し、田主丸町は約0.99%と、**市全体の2倍以上の速さで人口減少が進行**しています。
- **外国人の動向**：市全体では、日本人が減少する一方で、外国人は増加傾向にあります（4月：6,281人 → 翌3月：6,959人）。しかし、この外国人増加による補完効果は、市全体の人口減少を食い止めるには至っていません。

- **世帯数の推移**：人口が減少する一方で、世帯数は市全体で増加しています（4月：143,597世帯→翌3月：144,244世帯）。これに対し、田主丸町でも世帯数は微増（4月：7,643世帯→翌3月：7,710世帯）していますが、人口の減り幅が大きいため、**1世帯当たりの人数（世帯規模）の縮小**がより進行していると考えられます。

令和7年度の久留米市は、市全体として人口減少局面にあるものの、外国人住民の増加や世帯数の増加といった一定の構造変化が見られます。しかし、田主丸町においては、市平均を大きく上回るペースで人口減少が続いており、**周辺部における過疎化・少子高齢化の影響が市中心部よりも深刻に現れている**ことがデータから裏付けられました。

【観光入込客数】

福岡県全体および特定の地域（田主丸町）における宿泊者数や滞在人口に関する傾向を分析し、統括しました。

1. 外国人宿泊者の動向（福岡県全体）

- **主要な国・地域**：2024年のデータによると、韓国（30.90%）、香港（26.55%）、台湾（17.14%）からの宿泊者が上位を占めており、東アジアからの観光客が中心となっています。
- **推移**：2020年のパンデミックによる大幅な減少後、2023年から2024年にかけて急速に回復傾向にあります。特に韓国からの宿泊者は、過去から継続して最も多い傾向にあります。

2. 日本人宿泊者の動向（福岡県および久留米市）

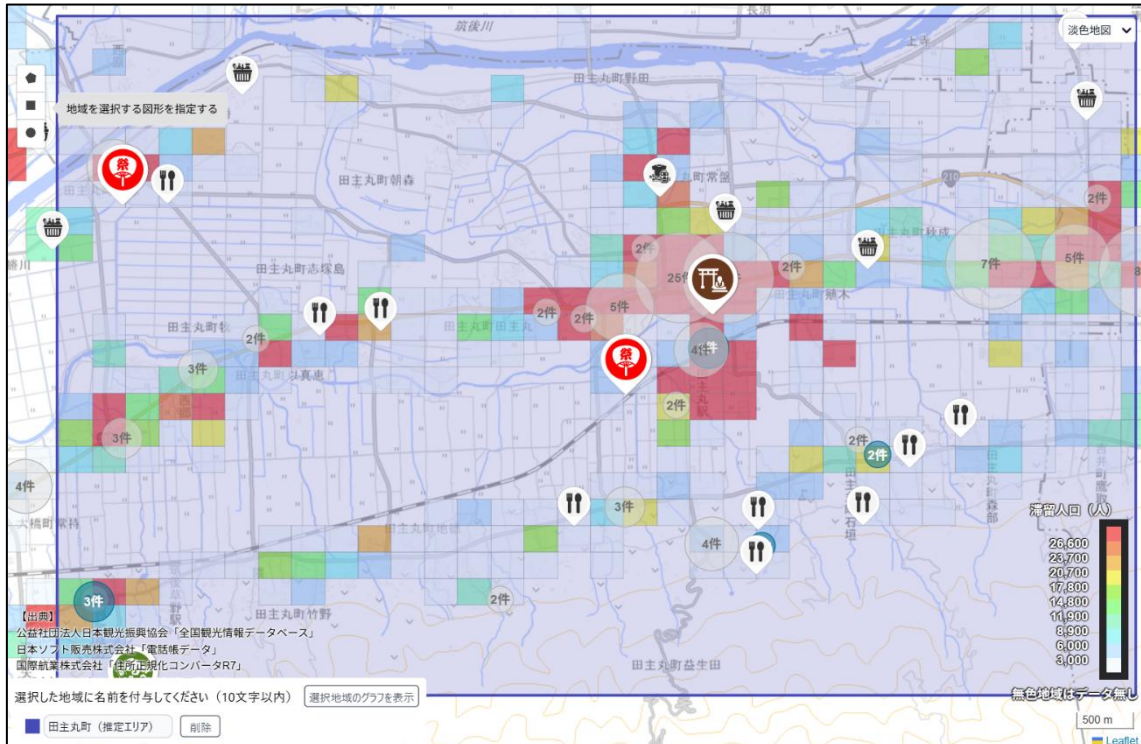
- **居住地別**：久留米市における日本人宿泊者は、福岡県内（16.34%）が最も多く、次いで東京都（10.40%）、神奈川県（7.60%）となっており、地元の需要と首都圏からの流入が目立ちます。
- **属性別**：福岡県全体では、近年（2023-2024年）において、大人の女性の宿泊者数が大人の男性をわずかに上回る傾向が見られます。一方で、13歳未満の子どもの割合は大人と比較して非常に少ない状況です。

3. 特定地域（田主丸町 推定エリア）の滞在人口分析

- **高齢層の圧倒的な多さ**：滞在人口の年代構成を見ると、60代以上が66.2%と大半を占めており、若年層（20代以下）の割合は極めて低いことがわかります。
- **地元中心の利用**：居住地構成では、同一市区町村内（地元）からの滞在者が90.0%に達しており、他都道府県からの流入はわずか0.6%に留まっています。このことから、観光地というよりも地域住民の活動拠点としての性格が強いことが推測されます。
- **時間帯と季節の傾向**
 - **時間帯別**：人口のピークは**11時から14時頃**の昼の時間帯に集中しており、夜間は減少します。
 - **月別**：年間を通じて滞在人口は比較的安定していますが、4月～5月、および7月に緩やかなピークがあり、11月に最も低くなる傾向があります。

4. 地域活動の状況（マップ分析）

田主丸駅周辺を中心としたエリアでは、飲食店や寺社仏閣、祭りの開催地点が点在しており、これらのスポットが滞在人口の発生源となっている様子が地図上で確認できます。



これらのデータから、福岡県全体としては東アジアを中心としたインバウンドの回復と首都圏からの集客が課題となる一方、田主丸町のような特定エリアでは、**地元の高齢層を中心とした日中の活動**が中心であるという、対照的な傾向が見て取れます。

【消費購買力】

2024年12月のデータに基づくと、福岡県の消費トレンドには全国平均と比較していくつかの顕著な特徴があります。

1. 「生鮮・惣菜」への支出割合が高い

福岡県は、全国平均と比較して「生鮮・惣菜」カテゴリーの購入金額および購入点数の占める割合が高いのが最大の特徴です。

- **購入金額の割合**：福岡県は41.72%で、全国平均（39.32%）を上回っています。
- **購入点数の割合**：福岡県は37.66%で、全国平均（34.07%）よりも高くなっています。

具体的には、「**惣菜**」が**購入金額で第1位**となっており、1000人あたりの購入金額は約31万円に達しています。

2. 「加工食品」と「菓子類」の割合が低い

一方で、加工食品や菓子の支出割合は全国平均を下回る傾向にあります。

- **加工食品**：購入金額の割合は20.95%（全国：22.34%）、購入点数は26.81%（全国：29.72%）と共に全国より低くなっています。
- **菓子類**：購入点数の割合が13.44%（全国：15.16%）と、全国平均より低めです。

3. 急成長しているカテゴリー

前年同月比で特に顕著な伸びを示している品目があります。

- **健康食品**： 購入金額が前年同月比で+102.2%と、爆発的に増加しています。
- **猫フード**： 同比で+47.9%と大きく伸びています。
- **米**： 同比で+37.7%増加しており、需要が高まっています。
- **青果**： 購入金額は第2位で、前年同月比で+25.1%の伸びを見せています。

4. 飲料・酒類の傾向

「飲料・酒類」については、全国平均と比べて**購入点数の割合（12.31%）が全国（11.35%）より高く**、頻繁に購入されていることが分かります。品目別では「発泡酒（10位）」や「ビール（11位）」が上位にランクインしています。

5. 購入金額ランキング（上位5品目）

福岡県における1000人あたりの購入金額ランキングは以下の通りです。

- 1位. 惣菜
- 2位. 青果
- 3位. 鮮魚
- 4位. 精肉
- 5位. ラッピングフィルム

総じて、福岡県は全国平均よりも**生鮮食品や手軽な惣菜を重視し、飲料の購入頻度も高い**という消費特性を持っていると言えます。